

— 突然まちを襲った

「衝撃」の記憶 —

東日本大震災以来の震度7

4月14日午後9時26分ごろ、熊本地方を震源地として発生したマグニチュード6.5の地震で、益城町は最高震度の「7」を観測しました。これは、平成23年に発生した東日本大震災以来の記録となりました。

地面が突き上げられるような突然の衝撃とともに襲った大きな揺れは、一瞬にして町中を暗闇に陥れ、私たちの心に大きな恐怖感を植えつけました。

被害状況が見えない中、町は直ちに災害対策本部を設置。関係機関との連携を図りながら被害者の救助と被害状況の把握などに当たりました。

人々であふれる避難所

初めて体験する突然の衝撃で、恐怖に襲われた町民は、それぞれ着の身着のまま、近くの公共施設や学校、駐車場、空き地などに自主避難。町災害対策本部が設置した避難所は、通路の確保もできないほど多くの

人々であふれました。

役場の駐車場には、近くの町民が続々と詰め掛け、夜の冷え込みが強まる中、余震におびえながら配布された毛布にくるまるなどして、そのまま不安な一夜を過ごしました。

交通網が乱れ大渋滞

地震から一夜が明けた翌15日。

停電により信号が消灯する中、亀裂、橋やマンホールにできた大きな段差、倒壊した家屋などにより道路があらゆる所で通行不能になるなど、交通網が寸断されました。

また、避難所周辺は駐車場所や救援物資を求める車両で混雑。役場周辺では、他県から応援に來た緊急車両や支援物資の運搬車両などが集中し、大渋滞となりました。

まさか！2度目の震度7

混乱の中、慌ただしい一日が過ぎ、日付が変わった4月16日午前1時25分ごろ、頻発する余震に脅かされながら、避難所や車中で眠れない夜を過ごしていた人、あるいはやっと眠りについた人たちを襲ったのは、またもや誰もが予想し得ない震度

7の大きな揺れでした。

この2度目の大地震は、人々の恐怖心をさらに増大させるとともに、想像を絶する甚大な被害を町にもたらしました。

①救援物資を求める人たちがごった返した役場駐車場。右奥は現地災害対策本部 ②町文化会館駐車場前の県道熊本高森線(地震前) ③同(地震後) ④足の踏み場がないほど人々で埋め尽くされた避難所(総合体育館) ⑤鳥居が崩れ落ちた安永神社



④



⑤



①



③

②